

日本語検定を活用して品質向上

一言葉にできなかった思いも全て「かたち」にすることが私達の使命

株式会社マコセエージェンシー お礼状制作部 田淵友梨氏



会社全体で日本語検定に取り組んでいる株式会社マコセエージェンシーのお礼状制作部の田淵友梨さんが、受検したきっかけ、受検した感想、効果などについて記事を書いてくださいました。

◆私達の会社について

弊社は広告代理業から始まり、フューネラル（葬祭）事業に力をいれている鹿児島県の企業です。「オリジナル会葬礼状」や「会葬パネル」、「メモリアル DVD」などを作成し、葬儀を温かな儀式にするためのお手伝いをしています。私はお礼状制作部の文章作成オペレーター。お電話でご遺族のお話を伺い、その思いを会葬礼状にまとめる仕事をしております。どうしたらご遺族の心の内を「かたち」にできるのだろうか、「いいお見送りができたなあ」と、ご遺族に感じて頂けるお手伝いができるのだろうか、私達は社員一丸となって様々な取り組みを行っています。



◆なぜ日本語検定を受検するのか

私達は正しい文章や、美しい文章が必ずしも感動を生むものではないと知っています。しかし、ご遺族の思いを言葉にして伝える、という役割を担った私達は“文章のプロ”でなければならず、プロである以上、日本語を正しく使いこなす力は当然身につけておくべき最低限の技術。マコセでは日本語力を客観的に評価する機会として日本語検定を位置づけ、今後もさらなる品質向上に努めていこうと考えています。



校正の様子



次ページへ

◆受検に向けて –皆で学習を楽しんでいます–

いつかは自分も受けようと思っている社員が多いのですが、なかなか踏み出せずにいるのは“難しい”というイメージがあるからです。2級を受検するため私自身が勉強を始めて改めて分かったのは、日本語にもちゃんと“公式”があるということ。たとえば尊敬表現。「お～になる」が基本形だと知っていたなら、「A お帰りになる」「B お帰りになられる」、どちらが正しいですかと聞かれたら、迷わずAだと答えることができます。扉が少し開くと練習問題を解くのも次第に楽しくなっていました。それでも試験を受けたあとは結果が届くまでドキドキでした。

◆受検結果をどう受けとめるか

現在マコセでは、2名が1級を、13名が2級を、5名が準2級を取得しています。敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記・漢字という6つの領域から幅広く出題される日本語検定は、毎日文章を書いている私達にとっても難しい検定試験です。残念ながら一度では合格出来ないこともあります。そのなかには私のところにこっそりやって来て、「次はいつですか？」と聞いてくる社員も。

頑張りたいというその気持ちが、明日の「感動」に繋がるのでしょうか。



勉強会の様子

◆日本語は楽しくて美しい

入社したばかりの頃、ご遺族から伺ったお話を上手く文章にまとめられず苦労しました。聞いた内容をとにかく全部書くのは、ただの作文。これは私達にとって全く意味のないことです。会葬礼状は旅立つ方と見送る方の心を繋ぐ最後の手紙。言葉にできなかった思いも全て「かたち」にすること、それが私達の使命です。言葉と言葉を繋げていけばそこに物語ができ、読む人の頭のなかに絵を描くこともできます。会葬礼状には季語を入れることもあるのですが、言葉を選んでいる時、月も雨も沢山の言い方を持っている日本語はとても素敵だなと改めて感じます。

◆日本語検定への期待

社会に出て働くようになると特に、場面に応じて敬語を使い分けなくてはならない機会が増えます。失礼のないように心がけることは大人のマナー。相手が上司や先輩なのか、お客様なのか、立場をわきまえた上で言葉を選ぶことが大切だと思います。しかし自分の使っている日本語が本当に正しいのか……もし間違っても指摘してくれる人は少ないでしょう。日本語検定は今の自分の日本語力を知ることのできるチャンス。どんな人でも恐れず挑戦してほしいと思います。